

新保磐次著
日本讀本

第六

T1A3

10

Sh55a

文部省檢定齊

新保磐次著

日本讀本 第六

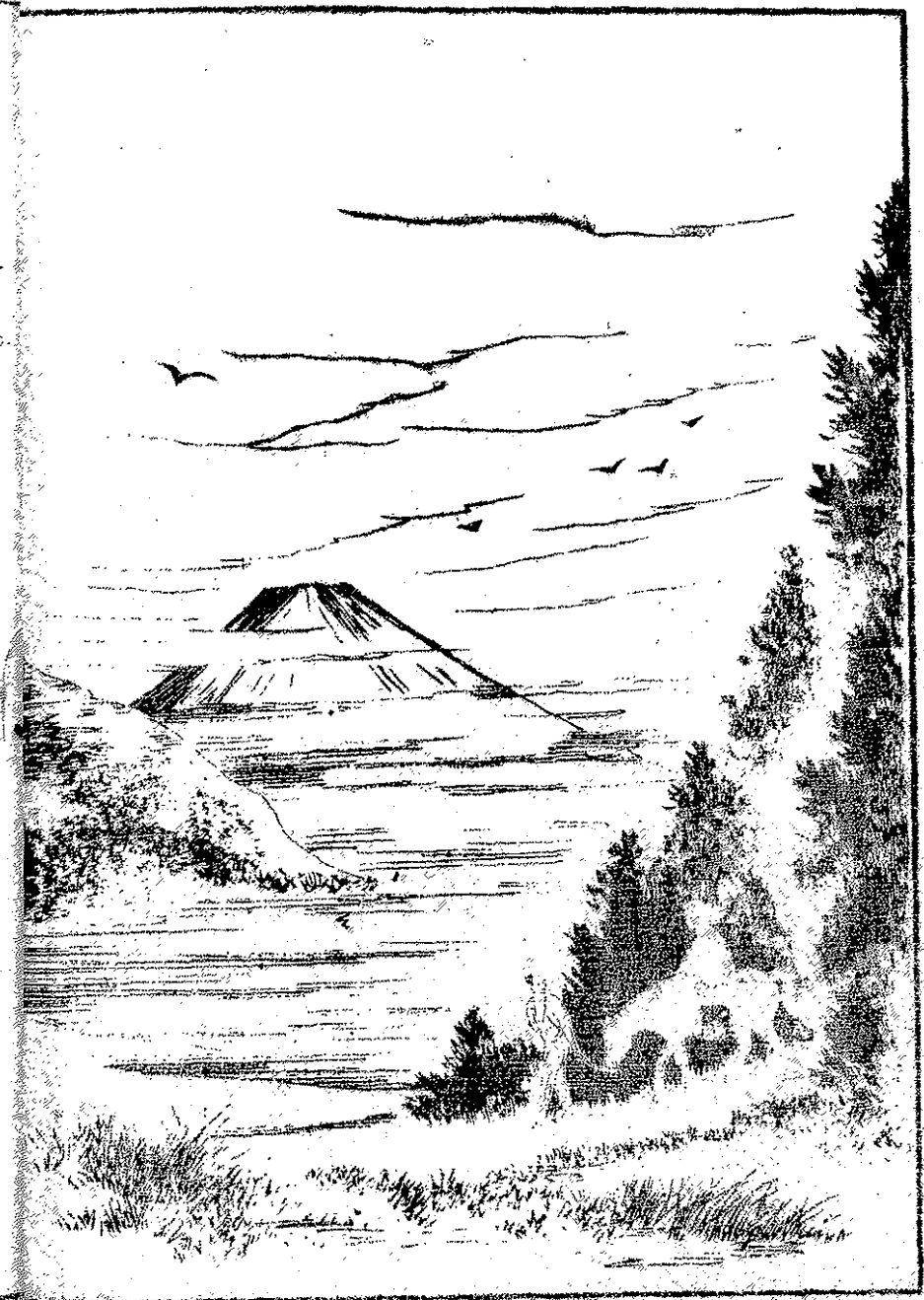
東京金港堂藏版

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 8 6 7 4 a

福岡教育大学蔵書



温泉

諸君ノ家ニハ井水ヲ飲ムモノアラシ、或ハ河水ヲ飲ムモノアラシ。山家ノ人ハ山ノかけ又ハ岩ノ間ヨリ湧キ出ヅル水ヲ飲ム、カクノ如キ水ヲ泉ト云フ。泉ハ大抵清潔ニシテ且冷カナリ。夏ノ旅行ニハ山陰ノ泉ヲ見出ダスヨリ樂シキハナシ。

然ルニ泉ノ中ニハ温カナルコト湯ノ如キアリ、然ノミナラズ熱クシテ手ヲ觸レ難キモノアリ。カクノ如キ水ハ甚深キ地中ヨリ出ヅル者ナリ。

サレバ地中ノ深キ處ハ甚熱キコト知ルベシ。
ソノ湧キ出ヅル處ハ大抵山中ニアリ、而シテカ
クノ如キ水ヲ温泉ト云フ。温泉ハ通常ノ湯ニ
異ナラザル者アリト雖、大抵地中ヨリ多少ノ藥
品ヲ含ミ來リテ鹹キアリ、澆キアリ、濁レルモア
リ、臭キモアリ。サレバ温泉ニ浴シテ病ヲ治ス
ルモノ往往アリ、コレヲ湯治ト云フ。

温泉ニ浴シテ病ノ愈ユルハ唯藥品ノ功ノミ
ナラズ、山家ノ空氣新鮮ニシテ、運動ノ場所甚
廣ク、心ヲ苦シムルノ繁忙ナク、目ヲ樂シマレムルノ

景色甚多キハ病ヲ治スルニ最功アル所ナリ。

職業

職業ニ勉強スル人ハ、極暑中、數日ノ暇ヲ得テ

温泉ニ浴スルヲ大ナル樂シミトス。東京ノ西ニ

相模ノ箱根山アリテ尤温泉ニ富メリ、東京近傍

ノ人暑中ココニ浴スル者多シ。箱根山ノ麓ニ

湯本村アリ、コレ温泉ヲ見ルノ最初ナリ。コレ

ヨリ山ヲ上ルニ隨ヒ逐次ニ箱根七湯ヲ見ルベ

シ。道中ノ山水清潔ニシテ、連山ノ間ヲ回ル時

ハ一道ノ谷川青葉ノ中ヨリ輝キ出テ、山上ノ石

道ヲ攀ヅル時ハ老樹日ヲ遮リテ天然ノ笠ヲ捧グ。

湯本ヨリ別ニ箱根山ヲ越ユル本道アリコレ
東京ヨリ京都ニ趣クノ東海道ニシテ即有名ナ
ル箱根八里ノ難所ナリ。昔後醍醐天皇ノ時新
田義貞朝臣詔ヲ奉ハリテ鎌倉ナル足利尊氏ヲ
征伐シ給ヒケル時尊氏ハコノ山ニテ官軍ヲ遮
リ戦ヒキ。カクノ如ク古來コノ山ヲ以テ戦ヒ
ノ要害ニ具ヘシカバ道路ノ險阻モ誠ニ理リナ
リ。サレバ明治ノ初メニ至ルマデ平日ココニ
關ヲ立テテ往來ノ人ヲ検査セシ故關東ノ名モ
コノ關ヨリ出デメリ。

箱根峠ノ絶頂ニ湖アリコレ旅人ノ最驚ク所
ナリ。湖水ハ幅一里長三里ソノ水清クシテ鏡
ノ如ク湖底ノ石モ數ヘ得ベシ。船ヲ浮ベテ眺
ムレハ波ノ如キ連山湖水ヲ圍ミ山ノ青葉ハ稚
キアリ老イタルアリ濃淡各紋ヲ成シテ緑ノ綴
子ノ幕ヲ張レルガ如シ。鶯ハ春ヲ過ギテ猶笛
ヲ止メズ蟬ハ秋ニ先チテ既ニ笙ヲ奏ス颯颯々
ル嵐瀟瀟タル龍或ハ琴ノ響クガ如ク或ハ大鼓
ノ鳴ルガ如シ。富士ノ頂キガ僅ニ連山ノ上ニ
顯レタルハ恰幕ノ内ヲ覗クガ如シ。湖水ノ

傍ニ箱根神社アリ、ココニ曾我十郎祐成、同五郎時致ノ遺物多シ。諸君ハ嘗テ五郎十郎ノ仇討チヲ聞キシコトアラシ。

箱根ノ湖水ヲ去ルコト五里ニシテ伊豆ノ熱海ノ温泉アリ、ソノ他上野ノ伊香保、攝津ノ有馬等皆有名ノ温泉ナリ。濁リテ臭キ温泉ニハ硫黄ヲ含ミ、手拭ヒヲ赤クスル温泉ハ鉄ヲ含ミ、鹹キ温泉ハ鹽ヲ含メリ。海水モアラズシテ鹽ヲ含メルヲ思フニ、地中ニモ亦鹽アルコト疑ヒナシ。諸君ハ理科ヲ學ブノ日、コノ事ニ付キ面白キ話シ

ヲ聞クナルベシ。

鹽ヲ含メル温泉、鉄ヲ含メル温泉ハ、虚弱ノ人ニ大効アリ。硫黄ヲ含メル温泉ハ、皮膚ノ瘡ニ効ヲ奏ス、而シテソノ蒸氣ハ常ニ腐リタル卵ノ臭ノアリテ、大抵ノ金類ヲ黑色ニ變ズ。銀ノ鑿時計等ガ黑色ニ變ズルハ、珍シカラズ。木ノろいヲ粧ヒタル顔ガ、コノ温泉ノ爲ニ黑色トナルコト亦往往アリ。然ラバ木ノろいニモ金類ヲ含メルカ。然リ木ノろいニハ鉛ヲ含メリ。木ノろいハ鉛ヲ以テ製セラレ。

胃と肺

人ハ食物ヲ食ヒ、空氣ヲ呼吸シテ生活ス。人ノ喉ハ二ツノ道ニ分カレ、ソノ一ハ食道ニシテ胃ニ至ル、他ノ一ハ呼吸ノ道ニシテ肺ニ至ル。諸子ハ既ニ胃袋ノ事ヲ知レリ。人ノ食物ハゴノ胃袋即胃ニ入りテ消化シ、遂ニ體中ニ廻リテ血トナル。血ハ循環シ、ツツ肉ヲ増シ、骨ヲ補ヒ、ソノ他スベテ使ヒ枯ラサレタル處ヲ補ヒ、且體中ノ汚キ物ヲ洗ヒ取りテ、遂ニ肺ニ至ル。肺ハ亦袋ノ如キ者ニシテ、空氣ココニ來リカノ汚キ物

ヲ掃除シテ、又空氣中ニ去ル。力クテ掃除サレタル血ハ又體中ニ循環ス。汚キ空氣ハ血ヲ十分ニ掃除セザルノミナラズ、却リテ人ノ健康ヲ害ス。

肺ハ胸ニ在リ、胃ハみづねニ在リ。鳥類獸

類ノ胸ニモ亦肺アリ、而シテ魚類ニハ肺ナシ。

魚類モ亦空氣ヲ呼吸スルコトハ已ニ學ベリ。

然ルニ魚類ニ肺ナキ時ハ魚ノ呼吸機械ハ何ナ

ルカ。諸子ハ魚類ノあぎノ中ニ赤キ櫛形ノ物

アルヲ見ルベシ。コレいらト云フ者ニシテ魚

類ノ爲ニハ肺ノ務メヲナセリ。諸子ガ知ル如
久魚ハ口ヨリ水ヲ飲ミ、いらヲ經テあぎノ外ニ
出ダス。而シテ血ハ常ニココニ廻リ來リテ水中
ノ空氣ニ逢ヒ、汚物ヲ掃除サルルナリ。

海綿

次郎ハ鹽ニ水ヲ汲ミ、海綿ヲ浸シテ石版ヲ洗
ヒツツ乳母ニ問フ海綿ハ綿ニテ作ラルルカ。
乳母方ニ洗ヒ物ヲナスニ鹽ヲ要セリ、性急ニ
答ヘテ曰フ誰レカソレ等ノ無用ノ事ヲ知ラン。
無用ノ問ヒヲセニヨリハ早ク鹽ヲ貸シ給ヘ。

次郎ノ父ソノ傍ニアリテ曰ス、次郎ヨクコソ
問ヒタレ。海綿ハ海底ノ岩ニ生ズルモノナリ。
ソノ岩ニ付ケル時ハ肉ノ如キ物アリテ海綿ノ
穴ヲ充タシ又一面ニソノ面ヲ掩ヘリ。肉ノ如
キ物ハ下方ニ於テ白久上方ニ於テハ黒色ニ近
シ。コノ肉様ノ物分カレテ圓キ切レトナリテ水中
ニ漂ヒ、適宜ノ岩ニ逢フトキハ直チニコレニ著ク
コノ圓キ一片岩ニ固著スレバ速ニ成長シテ海
綿トナル。海人ハコノ海綿ヲ取り、製造者ハコ
レヲ絞リテ肉ヲ去リ、日ニ晒シテヨク打テ然シ

テ後コレヲ市ニ賣ル。汝ガ用フル海綿モコノ
手續キラ經タル者ナリ。

海綿ノ成長ハ誠ニ奇異ノ仕方ナリ。海綿ハ
植物ナルカ、動物ナルカ昔ヨリ決セザリシガ今
ハコレヲ動物ニ屬セリ。サレバ綿ハ陸地植物
ノ實ニシテ、海綿ハ海中動物ノ骨トモ云フベシ。

毛虫。

才絹庭ニ立チテ曰ハク、アア氣味惡シ。花盛リ
ハ唯夢ノ如クニ過ギ、今ハ櫻ミ山吹キモ皆毛虫
ノ住處トナリヌ。枝ヲ渡リ、幹ニ升ル百千ノ毛

虫ヲ風吹ケバ雨ノ如ク落チテ人ノ襟ニ入ラン
トス。弟蝶吉曰ハク、然リ。今余ハ木ニ外ルコト
ヲ憚ル。櫻子ノ漸熟スルヲ如何セン。誰レカ
コノ憎ムベキ毛虫ヲ生ミタル。

父ハ椽ニ立テリコレヲ聞キテ曰ハク、コレハ蝶
ガ生ミシナリ。二人驚キテ曰ハク、彼ノ愛スベ
キ蝶ガ、蝶ガコノ毛虫ヲ生ムカ。然レドモ今年
イマダ蝶ヲ見ザルニ毛虫ハ既ニ生ゼリ。才絹
又曰ハク、蝶ハ實ニ夏秋ノ間ニ生ズルニアラズ
ヤ。且蝶ノ子ハ皆毛虫トナラバ誰レカ又蝶ヲ

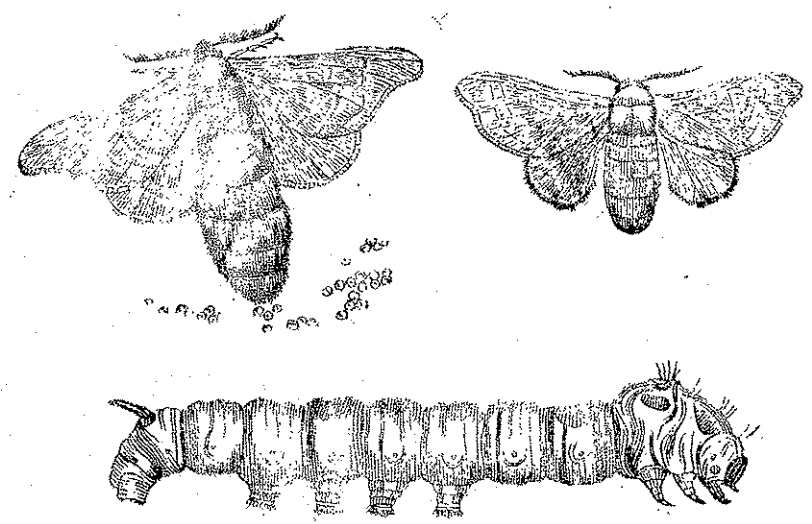
生マシ。父曰ハク然リ。蝶ハ固ヨリ毛虫ニ後
 レテ顯ル。然レドモ木ノ枝ノ間及ビ藪ノ内ヲ
 見ヨ、細キ糸ヲ以テ造リタル毛虫ノ巢アルベシ。
 毛虫ハ暫コノ中ニ潛ム間、終ニ蝶ニ化シテ、巢ヲ
 破リテ出ヅ。猶子細ニ草木ノ間ヲ尋ネバ、拇計
 リナル種種ノ袋ヲ見ルベシ。ソノ形或ハ卵ノ
 如ク、或ハ南京豆即落花生ノ如シ。カクノ如キ
 巢ヲ作ル虫ハ種類甚多久毛アルモアリ、毛ナキ
 モアリ。巢ハ皆細キ糸ノ網ヨリ成リテ、籠モレル
 虫ハ漸漸太ク短クナリ、或ハ數日、或ハ數週、或ハ

數月ノ後ニ至レバ、種種ノ蝶トナリテ出ヅ。蝶
 ハ秋ニ至リテ卵ヲ草木ニ生ニ付ケ、卵ハ翌年ノ
 春ニ至リテ虫ヲ生ズ。コノ虫ハ即毛虫等ニシ
 テソノ形容ハ全ク親虫ノ如シ。
 春ハ木ノ葉ノ間ニ動メキテ、遲鈍ニ生活シタ
 ル虫ガ蝶トナリテ、美麗ナル羽ヲ振ヒ、美麗ナル
 草花ノ間ニ戯レ、飛ブハ如何ニ愉快ニ覺ユルナ
 ラシ。暫巢ノ中ニ籠ルハコレ後日ノ愉快ヲ受
 ケンガ爲ナリ。

子子ガ蚊トナリ、蛆ガ蠅トナルコトハ、汝等モ

知ルナラン。凡羽アル虫ハ多クハ羽ナキ虫ヨ
 リ化シタルモノナリ。コノ類ノ中ニ最多ク人
 ノ用ヲナスハ蠶ナリ。蠶ガ桑ノ葉ヲ食ヒテ成
 長シ終ニ繭ヲ作ルハ汝等屢見シナラン。繭ハ
 即蠶ノ巢ナリ。人モシ蠶ノ卵ヲ得ント欲スレ
 バ繭ヲ温暖ナル處ニ置ク。數日ニシテ蠶ハ蝶
 トナリミヅカラ繭ヲ破リテ出デ無數ノ卵ヲ生
 ム。コノ卵ヲ付ケタル紙ハ種紙即蠶卵紙ニシ
 テ翌年ノ春ニハ蠶コレヨリ生ル。

蝶 吉ハコレヲ聞キ、忽植エ込ミノ間ヲ尋ネ廻



リ種種ノ巢ヲ取り來ル
 コレヲ温カナル處ニ置キ
 日日ソノ様子ヲ伺ヒ夕
 リ。數日ニシテ種種ノ
 蝶カハルガハル出ヅ黒
 キアリ白キアリ黄ナル
 アリ或ハ美シキ紋アル
 者アリ。カクテ蝶吉ハ
 多ク蝶ノ標本ヲ得如何
 ナル巢ヨリ如何ナル蝶

不賣不買

ヲ生ズルカラ善ク知ルニ至リ、遂ニ虫ノ厭フベ
キヲ忘レテ却リテソノ穿鑿ヲ樂シムニ至リ又。
才絹モ亦常ニコノ穿鑿ヲ見テ大ニ虫ノ性質ヲ
知り、終ニ蠶ヲ飼フコト甚巧ミナルニ至リシト
云フ。

雀ト蝶。

雀蝶ニ禮シテ曰ハク「美ナルカナ君ノ翅。僕
等身體空シク大ナリト雖美麗ハ君ニ及バザル
コト遠シ。君モレ僕ヲ許シテ朋友タラシメバ
僕が幸甚シカラシ。

蝶曰ハク「足下ハ何故ニ反覆ノ辭ヲナスド。
前日足下余ヲ罵リテ『コ』ノ遲鈍醜惡ナル虫ト云
ヒ、剩ヘ余が頭ヲ蹂躪セシニアラズヤ。
雀曰ハク「君誤レリ君誤レリ。僕如何ゾカク
ノ如キ失敬ヲナサン。僕ハ君ノ溫和ニシテ美
麗ナルヲ見テ常ニ尊敬ノ心ヲ生ゼザルコトナシ。
蝶曰ハク「余ハ嘗テ遲鈍醜惡ナル毛虫ナリシ
ヲ知ラザルカ。余ハ足下ニ忠告ス、他ノ前途ヲ
知ラズシテ妄ニコレヲ輕蔑スルコト勿シ。

白井粟太郎

先年白井粟太郎ト云ヘル児童アリキ。父ハ職工ニシテソノ家豊ナラザリシモ衣食ニ乏シキコトハナク、粟太郎六歳ノ年ヨリ學校ニ入學スルヲ得タリ。太郎七、八歳ノ時母ハ病ニカカリ療治看病ノ功モナクシテ墓ナク世ヲ去リヌ。コレヨリ親一人、子一人トナリケレバ、恩愛ノ心薄キニハアラザレド如何セン、父ハ職工ヲ業トシテ日ニ先チテ出テ日ニ後レテ歸リケレバ細カニ太郎ヲ世話スルコト能ハズ。サレバ太郎ハ

朝ニ自弁當ヲ包ミ、火ヲ消シ、鍵ヲ掛ケテ學校ニ行ク。カカル時誰レカ母ヲ思ヒ出デザラン。太郎ハ夕ニミヅカラ鍵ヲハヅシ、獨徒然トシテ父ノ歸ルヲ待ツ。カカル時誰レカ母ヲ思ヒ出デザラン。粟太郎ガ衣服ハ綻ビ、垢ツキテ、朋友モ交リヲ厭フニ至レリ。粟太郎ガ母ヲ思フ涙イマダ乾カザルニ、十歳ノ秋、父ハ不意ノ怪我ニヨリテ死ニヌ。世界廣シト雖、今ハ太郎ガ身ヲ寄スベキ所ナシ。ソノ心ノ中思ヒヤルベシ。コノ町ニ富メル人アリ

ソノ子幸次ハ粟太郎が同級ノ朋友ナリ。幸次ハ親切ナル童子ニシテ常ニ粟太郎ヲ憐ミ交リシガ、今コノ不幸ヲ聞キ、已レガ衣食ヲ分カチ、太郎ヲ養ハシコトヲ父ニ願ヒキ。父ハ幸次ガ慈善ナルヲ喜ビ、直チニ太郎ヲソノ家ニ養ヒシカバ、太郎ハ朋友ノ親切ニヨリ、飢エ死ナザルコトヲ得タリ。然レドモ昨日ハ幸次ノ朋友タリ、今日ハソノ僕タリ。富家ノ僕ハ貧家ノ嬖子ニ及バザルナリ。

粟太郎ハ恩ニ感ジ、心ヲ盡クシテソノ家ニ仕フ

ルコト二年ヲ經テ十二歳ノ時、僅ノ旅費ヲ携ヘテ東京ニ出テタリ。コノ旅費ハ幸次ガ小遣ヒヲ時時分カチ與ヘテ貯ヘタルナリ。東京ニハ粟太郎ガ父ノ親類アリケレバ、太郎ハ暫コノ人ヲ便リ、路頭ニ迷ワコトヲ免レタリ。

粟太郎十三歳ノ年、指物師ノ弟子トナリシガ、不幸ハ太郎ガ身ヲ離レズ、忽チ主家ノ零落ニ逢ヒテ他家ニ轉ジ、コレヨリ或ハ人ノ從僕トナリ、或ハ園丁トナリ、或ハ製造場ノ人夫トナリ、職工トナリテ種種ノ艱難ヲ經タリ。粟太郎ハ田舎

ニ生マレタルガ故、唯正直、勉強ナルノミニシテ、遲鈍、質朴ナリケレバ、常ニ都會ノ人ノ心ニ合ハズ、ソノ奉公ノ間、或ハ主人ノ怒リニ觸レ、或ハ朋輩ノ侮リヲ受ケテ、堪ヘ難カリシコト亦寡カラズ。然レドモ、粟太郎ガ涙ハ時時、父母ヲ念フガ爲ニ流ルルノミ、艱難、辛苦ノ爲ニハ一滴モ落チズ。粟太郎ハ此少ノ給金ヲ以テ古本ヲ買ヒ求メ、コレヲ以テ夜夜獨學ヲナシ、殘金ヲ郵便局ニ預ケテ貯ヘタリ。カクスルコト數年ニシテ、讀書、算術モ一通リ出來、如何ナル辛苦ニモ堪フベキ

適シ、若者トソリヌ。遂ニ或商家ノ手代トナリテ、人ニ主人ニ愛セラレ、毎年主人ノ代理トシテ、京、大阪ニ至リ、商用ヲ辨ズルニ至リ、大ニ諸人ノ信用ヲ得タリ。粟太郎ハ主人ノ信切ニヨリ、大ニ人ニ知ラレケレバ、一層心ヲ盡クレテ事フルコト、五年間、已ニ二十餘歳ニナリケレバ、主人ハ太郎ニ一家ヲ立ツルコトヲ許シ、及ビ商ヒノ資本トシテ、多分ノ金ヲ與ヘシカドモ、太郎ハ人ノ力ニ頼ルコトヲ欲セズ、唯己レガ貯ヘタル給金ヲ資本トシテ、家

十一

ヲ借り商賣ヲ始メタリ。

粟太郎ハ唯商法ニ馴レタル而已ナラズ少年ノ時種種ノ職工場製造場ヲ渡リシガ爲指物ナリ織リ物ナリ鐵物ナリソノ精粗ヲ見分ク眞實ヲ鑒定スルコト甚明カニシテ或ハ新奇ノ模様恰好ヲ工夫シテ世ノ好ミニ應ズルコト亦巧ミナリケレバソノ商賣一トシテ利ヲ得ザルコトナシヨシ損失アレバトテ粟太郎ハ心ヲ落トス若者ニアラズ 粟太郎ハ近頃婚姻セシガコノ妻ハ善良ナル父兄ニ育テラレ有名ナル高等小學校ヲ

卒業シタルモノナレバ裁縫料理ノ事ニ精シク下女下男ニハ親切ニ客ノ應對ニハ愛敬アリイマダ一タビヒ夫ヲ怒ラセシコトナシ。サレバ粟太郎ハ家事ニ於テハ聊ノ心配ナク専職業ニ勉強シ遂ニ一個ノ豪商トナルコトヲ得タリコレニ細君ノ功ニヨリテナリ。

白井粟太郎氏ハ幼キ時父母ヲ失ヒ親ナキノ不幸ヲ知ルコト深カリケレバ己レガ子ヲ養ヒ育ツルコト實ニ親切ナリ。人ニ使ハレテ婢僕ノ辛苦ヲ知ルコト深カリケレバ婢僕ニ對シテ甚

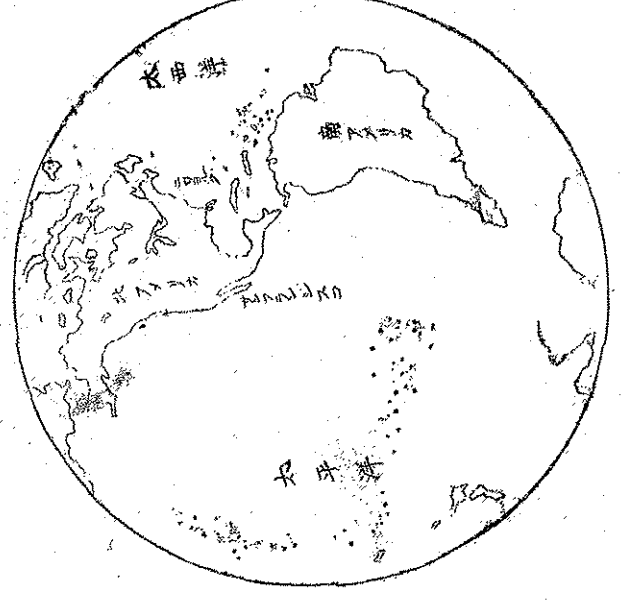
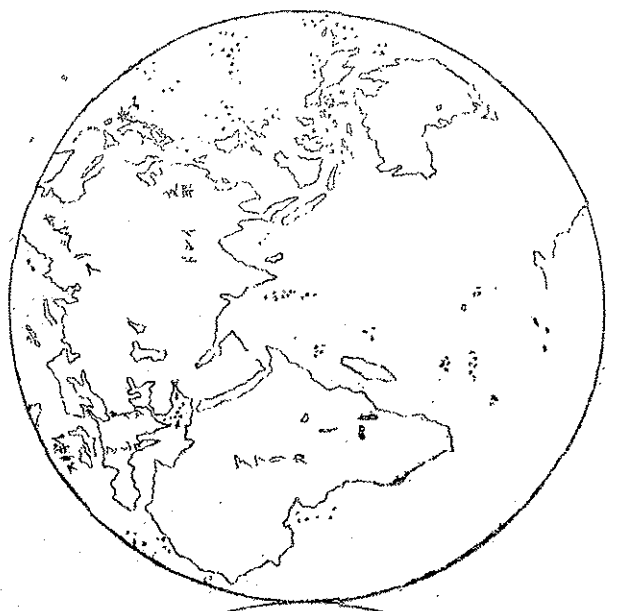
慈愛アリ。親戚朋友ノ助ケニヨリ飢エ死ナザルヲ得タリシカバ親戚朋友ヲ大切ニシテ禮義信實ヲ盡クセリ。永ク幸次ガ慈善ヲ感ジ慕ヒテ人ノ不幸ヲ聞ケバ惠マザルナク久久ノ難ヲ聞ケバ助ケザルナシ。白井氏ノ家已ニ富ミ家内亦和睦シ禮義ニハ厚ク慈善ニハ勇ナリケレバ人ノ尊敬大方ナラズ。謂ハコル紳士トハカカル人ヲコソ云フナラメ。白井氏ガ二十年ノ辛苦ハ夢ノ如ク今ハ心一任セヌ事モ無クレド唯父母ヲシテ一タビコノ繁昌ヲ見シメザルコト如

何ニ口惜シカリクニ。

西へ西へ。

諸子トシ汽船ニ乗リテ日本ヲ發シ西ニ向カヒテ進マバ五晝夜ノ後一ノ陸地ニ到着スベシ。コノ陸地ニ住メル男ハ髮ヲ剃リテ芥了坊主トナリ芥子ノ毛ヲバ三ツ打テ編ミテ後口ニ垂レタリ。諸子ハカカル人ヲ稱シテ南京人又ハ廣東人ト云フナルベシ。抑コノ陸ハ支那ト云ヘル大國ニシテ南京、廣東ハ支那ノ都會ノ名ナリ。毛シコノ陸ノ海岸ヲ北ニ進ミ更ニ東ニ回ラハ一ノ

半島ノ頸ニ至ルベシ。コノ半島ハ朝鮮ニシテ、諸子ノ知ル如ク、ワガ對馬ト鄰セリ。猶海岸ニ沿ヒテ進マバ遂ニ極寒ナルさいべりやニ至ラニ、コレワガ北海道ノ鄰ナリ。然レドヒコノ話シヲバ他日ニ譲リ、猶一途ニ西ノ方ニ進ムベシ。支那ノ西境ヲ越エバちべつと或ハいんどニ入ルベシ、コレ謂ハユル天竺ノ諸國ナリ。天竺ヨリ西ノ國國ヲ旅行セバ、或ハ高山ヲ越エ、或ハ大川ヲ渡リ、或ハ數百里ノ沙原即沙漠ヲ經テ遂ニ一個ノ大ナル入り海ニ臨ムベシ。コノ入り



日本書紀卷之六 天孫 天孫 天孫

海ハ地中海ト稱セラレソノ南北ニ各大陸アリ。
南ナル大陸ハあふりかト稱セラレ、くるんぼノ
多ク住ム所ニシテ氣候甚暑シ。北ナルハ即
ぎりすふらんすといつ等ノ陸ニシテ謂ハユル
西洋ノ國國即わろつぱナリ。諸子ハ必コノ
國國ヲ一見センコトヲ欲スルナラン。好シ船
ヲ地中海ニ浮カベテ西ニ馳セ、北岸ナルふらんす
ニ上陸セヨ。

ふらんすニ至ラバ諸子ハぱりヲ一見スベシ。
ぱりハふらんすノ都ニシテ、七階、八階ノ樓閣ハ

林ノ如ク、鐵道、電信線ハ蛛ノ糸ノ如ク、車馬、衣服
ノ花ヤカノハ應對進退ノ美シキ一トシテ曰ヲ
驚カリザル無カラフ。世界ノ美麗ハ實ニコノ
ぱりに集マレリ。ふらんすト海峡ヲ隔テ島ア
リ、コレヲいぎりすト云フ。

いぎりす人ハ古來航海ニ巧ミニシテ隨ヒテ
商買一賢久職業ニ勉メタリ、故ニいぎりすノ繁
昌ハ世界無雙ト稱セラレ。ふらんすハ世界ノ
美麗ヲ極ム、いぎりすハ世界ノ繁昌ヲ極メタリ。
コノ國ノ都ハろんどんニシテソノ繁昌ノ様子

ヲバ一一語リ盡クシ難シ。コノ國ハほうろつは
ノ西ノ果テニ在リ。諸子ハ猶東方ほうろつは
ノ國國ヲ遊覽セント欲スルカ。待テ又余ハ諸
子ヲ導キテ世界ノ西ノ果テヲ尋ネント欲スル
ナレバコノヨリ船ニ乘リテ西ノ方ニ進ムベシ。
然レドモ出立ニ臨ミ諸子ニ一言語スベキコト
アリ。ほうろつはノ東ノ方ニ屏風ノ如キ一帯
ノ山脉アリオノツカラ大陸ノ境ヲナセリコレ
西洋諸國ノ境ナリ。モシコノ境ヲ越エテ東ニ
進マズ又いんど支那さいべりあ等ノ國ニ返ル

ベシ。コレ等ノ東洋諸國日本ニ至ルマデヲ總
稱シテあむあト云フ。イザ諸子ハいぎりすヲ
出帆シテ猶西ニ進ム。西ノ海ハ即太西洋ナリ。
太西洋ヲ西ニ横切リテ一ノ大陸ニ達スベシ。
コレあめりか洲ニシテ諸子が上陸セン港ハ多
分ニうよろくナルベシ。あめりかニハ多クノ
見ルベキ處アリ且ソノ國人ハ日本人ヲ親愛ス
ルコト深ケレバ諸子ハココニ逗留遊覽スルヲ
喜ブナルベシ。然レドモ早ク世界ノ西ヲ究メ
ント欲セバにうよろくヨリ直チニ汽車ニ乘リテ

又西ノ方ニ進ム。西ニ進ムコト七晝夜ニシテ
 汽車ニ飽キ果ツル頃あめりかノ西岸ニ達セン。
 ココハさんふらんしすコノ港ニシテ、西ノ方ハ
 渺渺々ル太平洋一鬢ノ山影ガ見エズ。オオ、
 ソレヨ、諸子ハ更ニ西ニ進マザルベカラズ。
 さんふらんしすヨリ汽船ニ乗リ、太平洋ヲ
 西ニ横切ルコト二三週日ニシテ一ノ大キナル島
 ニ近ヅクミシ。ソノ山ヤ、岬ト、燈明臺ト、嘗テ見シ
 コトアルガ如クナルベシ。アア、コレツガ日本
 ニ似タカナリ。コノ時諸了ハ故郷ヲ戀ヒ、父母

兄弟ヲ思フノ情甚切ノルベシ。
 船ハ一聲ノ笛ト共ニコノ島ノ灣ニ入フン。
 アハ似タリシハ道理ナリ似タルモ道理ナリ、コ
 ノ灣ハ東京灣ニシテカノ港ハ横濱ナリ。コノ
 島ハ日本國ナリワが出立セシ國ナリ。奇ナル
 カナ日本ヲ發シテ西方ニ進ミ遂ニ又日本ニ返
 ルコト。
 諸子モシ日本ヲ發シテ東ノ方ニ進マバ、右ノ
 旅行ヲ跡戻リシテ再日本ニ返ルヲ得ベシ。コ
 レ實ニ珍シカラザル事ニシテ世界一周ノ旅行

ラスル人近來往往アリ。コノ地面が平カナル物
 ナラバ真直ニ一方ニ進ミテ再日本ノ地ニ返ラ
 ルベキカ。地面ハ實ニ手球ノ如ク圓キ物ナリ
 故ニコレヲ地球ト云フ。諸子或ハ地面ノ圓キ
 ヲ信ゼザルモノアラシ。諸子モシ茶碗ノ縁ニ
 就キテ圓ミヲ計ラバ僅ニ一寸ノ間ニ著シキ曲
 ガリヲ見ルベシ、然ルニ井筒ニ就キテ計ラバ一寸
 ノ間ハ殆直線ノ如クナラン。又ハ平地ノ中
 央ニ杭ヲ立て、コレニ二三間ノ繩ヲ結ヒ付ケツ
 ノ一端ヲ引キ張リテ回ラバ、諸子ノ足跡ハ一ノ

大キナル圓ヲ画クベシ。カカル大圓ニ於キテハ、
 一寸ハオロカ、一尺ノ間モ殆一直線ナルベシ。
 サレバ圓ハ大キナルニ隨ヒテ益平カナルが如ク見
 ユル者ナリ。地球ハ實ニ大ナル球ニシテソノ
 回り一萬里ニ餘レリ、モシ歩行シテ一周セバ三
 年ノ月日ヲ要スベシ。カカル球ニ於キテハ一
 里二里ノ間モ殆真直、真平ナルが如キハ當然ノ
 コトナリ。

ココニ地球儀アリ。コレ地球ノ總體ヲ象リ
 タル者ナリ。諸子ハコレニ就キテ旅行ノ道ヲ

復習セヨ。諸子或ハ云ハン地面ニハ山アリ川
 アリテカクノ如ク平カナラズ。然リ然レドモ地
 球ヲカクマデニ縮ムル時ハ富士山ノ高サモ紙
 一枚ノ厚サニ過ギズ。諸子ハコノ雛形ニ満足
 シテ可ナリ。諸子又云ハン地球ハカクノ如キ
 臺ニ乗ルカ。否地球ニハ臺ナシ、臺ナクシテ能
 ク空中ニアリ。ソノ道理ヲ學ブハ諸子が高等
 ノ學科ヲ修ムル日ニアルミシ。然レドモ余ハ
 唯一言ヲ殘リン、月星、太陽ハ圓クシテ空中ニ懸
 カレリ、而シテソノ臺アルヲ見ズ。

太閤

太閤様ハ初メノ名ヲ木下藤吉郎秀吉ト云ヒ
 キ。秀吉ハ尾張ノ人ニシテ若キヨリ諸方ニ流
 浪シ、二十三歳ノ時初メテ尾張ノ國主織田信長
 ニ仕ヘテ從僕トナルヲ得タリ。秀吉ノ面猿ニ
 似テソノ心甚活潑、鋭敏ナリケレバ猿面冠者ト
 云フ異名ヲ得、大ニ信長ニ愛セラレ、幾モナク一
 方ノ大將トナルニ至レリ。秀吉軍ヲ用フルコト
 妙ヲ極スソノ向カフ所勝々ザル所ナク、功ヲ以テ
 筑前ノ守ニ任ゼラレ、氏ヲ羽柴ト改メ、羽柴筑前

守秀吉ノ名既ニ天下ヲ轟カセリ。

秀吉信長ヲ助ケテ殆天下ノ亂ヲ平ゲシニ、秀吉四十七歳ノ時信長ハ明智光秀ノ爲ニ殺サレヌ。秀吉直チニ軍ヲ出ダシ一戦ニシテ光秀ヲ滅ボシ信長ノ怨ミヲ報イケリ。然ルニ故信長ノ老臣等秀吉ノ功甚高キヲ妬ミ、相謀リテコレヲ滅ボサントス、中ン就ク佐久間玄蕃盛政ハ有名ナル猛將ナリ。近江ノ國ニ賤カ嶽アリ、湖水ノ邊ニ在リ。秀吉コノ山ニテ盛政ト戦ヒ、亦一戦ニシテコレヲ殺シタリ。コノ戦ヒニ秀吉ノ臣加藤清正、

福島正則等七人ノ壯士鎗ヲ振ヒテ敵陣ヲ破リキ、コレヲ賤カ嶽ノ七本鎗ト云フ。秀吉遂ニ全ク天下ヲ平定シ、豊臣ノ姓ヲ賜ハリ關白ニ任セラレテ天下ノ政ヲ取ル。關白ハ昔ノ官名ニシテ百官第一ノ坐ヲ占ムルモノナリ。關白隱居スレバ太閤ト云フ。

秀吉心甚大ニシテ早クヨリ支那ヲ攻メ取ルノ志シアリシカバ、ミヅカラ九州ニ出張シ、軍ヲ出ダシテ先朝鮮ヲ攻メシメタリ。然ルニ秀吉病ニヨリテ死シ、諸軍朝鮮ヨリ返リヌ。朝鮮征伐

ノ先陣ハ即有名ナル**加藤肥後**守**清正**ナリキ。
清正ガ**朝鮮**ニ入リシ時ソノ鋒ニ敵スル者ナ
ク**朝鮮**ノ王子二人ヲ擒ニセシカバ**朝鮮**人皆**清**
正ヲ恐レテ**鬼**將軍ト稱シ今ニ至ルマデソノ名
ヲ忘レズト云フ。**清正**ハ亦政事ニ長ジ**建築**ニ
巧ミナリキ。ソノ**肥後**ヲ治メシ時人民ノ職業
ヲ進メシコト少カラズ。**肥後**ノ**熊本**ノ城ハコ
ノ人ノ計畫セシ所ニシテ後三百年**明治**十年**西**
郷隆盛ガ**薩摩**ノ壯士ヲ率テ攻メテ了ラシタル
堅城即コレナリ。

神功皇后八幡太神宮。

極メテ占キ事ニテ定カニハ知リ難ケレド二
千年ノ昔今ノ**朝鮮**カ三韓ト云ヒシ頃ワケ九州
ノ民ト相通ジテ屢謀叛ヲ起コサシメタルガ如シ。
ソノ時ノ天子**仲哀**天皇謀叛ヲ鎮メシタメ九州
ニ行幸アリシガ不幸ニシテ**香椎**ノ宮ニテ崩ジ
玉ヒキ。**神功**皇后ハコノ天皇ノ御后ニテソノ
時懷妊シ給ヒシガ智勇並ビナクオハシマシテ
先帝ノ御志ミヲ繼ギ自大將軍トナリ大臣**武内**
宿禰等ヲ率テ天海ヲ渡リ三韓ヲ攻メ靡カシ達

二三韓ヲ屬國トナシテ歸リ給ヒキ。コレヨリ數百年ノ間三韓ハ日本ニ屬シテ絶エズ貢ヲ奉



リキ。

コノ皇后ノ御腹ニ宿

リ給ヒシハ即應神天皇

ナリ。應神天皇ハ即八

幡太神宮ナリ。コノ天

皇ノ御時三韓ヨリあにト云ヘル學者ヲ召シテ學問ヲ開キ給ヒキ。汝等ガ習フ所ノ漢字ハコ

ノ御時ニ開ケ初メシナリ。ソノ外織リ物縫ヒ

物醫藥製造等ノ業コノ時既ニ支那ニ開ケタリシカバ、皆三韓ヲ經テ漸漸日本ニ傳ハリテ大ニ世ノ中ノ便利ヲ助ケタリ。應神天皇ノ御子ヲ仁德天皇ト申ス。

仁德天皇。

仁德天皇ノ御代ニ惡作打チ續キタルコトアリシガ一日天皇樓ニ上リテ四方ヲ見渡シ給フニ人家ニ煙ノ見エザリケレバ、アハヒ吾ガ人民ハ炊グベキ食物モナク天木ノ實ヲ食ヒ草ノ根ヲ嚙ムニヤアラシトテ三年ノ間諸稅ヲ免シ給

ヒギ。カクテ天朝ニハ御物モ追ヒ追ヒ乏シク
ナリテ屋根ハ漏リ御衣ハ散ルルニ至レドモ少
シモ心ニカケ給ハザリキ。

程經テ又樓ニ上リテ見給フニ竈ノ烟雲ノ如
ク立チケレバ吾レハ富メリ。ト喜バセ給フヌ御
傍ノ人人承リテカク宮殿ハ朽久御衣ハ散レテ
河ノ御富ミカ候フベキ。ト申シケレバイヤ民ノ
富メルハ吾ガ富メルナリ。ト仰セラレケリ。カ
クテ人民ヨリ諸税ヲ納メ皇居ヲ造營セシト願
フコト冉三ナルニ至リ始メテ許シ給ヒケレバ

國中ノヒノ我レヒ我レヒト馳セ參リ或ハ物ヲ奉リ、
或ハ人夫トナリテ日ナラス壯大美麗ナル皇居
ヲ造リ畢ハリヌ。誠ニ吾レハ富メリ。ノ御言ハ空
ンカラガリキ。

後數百年ヲ經テ藤原時平公コノ御心ヲヨメ
ル歌。

高キ屋ニ登リテ見レバ煙立ツ民ノ竈ハ賑
ヒニケリ。

藤原鎌足。

昔皇極天皇ノ御代ニ大臣蘇我入鹿ト云フ人

アリケリ。蘇我氏ハ代代大臣ノ位ニ居リ、殊ニ
 入鹿ニ至リテ政ヲ我が儘ニシ、奢リテ極メ、殆帝位
 ヲモ危クセン勢アリシカバ、皆人コレヲ患フレ
 ドモ、入鹿ノ勢強クシテ如何トモスルコト能ハ
 ザリキ。

ココニ當代ノ御子**中**大兄ト申ス皇子オハシ
 マシ、又**中臣鎌足**ト云フ人アリ、共ニ智勇逞シキ
 人人ニテ折リモアラバ且ニ心ノ底ヲ語り合ハサ
 バヤト思ヒフガテ宜シキ序モ無カリケリ。一
 日、**蘇我**ノ遊ビアリテ**皇**了モ**鎌足**モ折リヨク出

デ合ヒ給ヒシガ、皇子ノ鞠ヲ蹴給フハヅミニ御
 杵ノ落チケルヲ**鎌足**拾ヒ取り、蹴キテコレヲ奉
 リケレバ**皇**子モ小蹴キテコレヲ受ケ給ヒキ。
抑智ト云ヒ、勇ト云ヒ、共ニ一對ノ善キ朋友トハ
 云ヒナガテ、カク互ニ禮儀ヲ正シタスルハ互ニ
 敬愛スル心ヲ示スモノナレバコレヨリ二人ノ
 交リ日日ニ親シクナリテ、心ノ底ヲ打ち明カシ
 入鹿ヲ誅スル密談ヲシ給ヒケリ。カクテ又ニ
 三ノ同志ノ人人ヲ語ラヒテサシモ勢強カリシ
 入鹿ヲ難ナク誅シテ天下ヲ平カニシ給ヒキ



中大元ノ皇子後ニ天子ノ位ヲ嗣ギ給ヒ、中臣鎌足コレヲ助クテ盛ニ支那ノ風ヲ取り學校ヲ興シ禮義ヲ定メ、器械ヲ作ル等ノコトヲ勸メ給ヒキ。コレ天智天皇ニシテ秋ノ田ノカリホノ庵ノ苦ヲアラミ我が衣手ハ露ニヌレツツト云

フ御歌ハ氏ヲ憐ム心ヲヨマセ給ヒシトカ。鎌足ハ後ニ氏ヲ藤原ト改メ、其ノ子孫代代高官ニ登レリ。

新陳代謝及ビ齒。

筆ノ漸漸ニ磨レテ減ルヲ見ヨ。衣服ノ漸漸ニ磨レテ薄ラグラ見ヨ。コレ等ハ使用セララルニ隨ヒ塵埃トナリテ散ズルナリ。人ノ身體モ亦日日使用セララルニ隨ヒ漸漸ニ廢物トナリ、或ハ口ヨリ吐キ出ダサレ、或ハ皮膚ヨリ蒸發シ、或ハ全身ノ垢トナリ、日日減損シテ止ム時ナシ

然レドモ人ハ食物ヲ以テコノ減損ヲ補フ故ニ
器物ノ一タビ減損シテマタ恢復セザルガ如ク
ナラズ。古キ者務メテ去レバ新シキ者
來リテコレニ代ハルゴレヲ新陳代謝ト云フ。

人體ハ常ニ新陳代謝スト雖、獨齒ニオイテ然
ラザル者アリ。諸君陶器ノ缺ケヲ仔細ニ見バ、
ソノ内部ハ素燒キニシテ外面ニ上藥ノ掛カレル
ヲ知ラシ。今齒ニ亦カクノ如シ、内部ハ稍粗糲
ニシテ外面ニ白久堅久薄クシテ、滑カナル一層
アリ。コト余等カ常ニ見ル所ノ齒ノ面ニシテ

いなめろト稱セラレ。いなめるモシ損ズレバ
齒ノ内部コレヨリ碎ケテマタ止ムベカラム。
而シテいなめるニハ新陳代謝ナキヲ以テ一タ
ビ損ズレバ滋養モコレヲ恢復セズ、妙藥モコレ
ヲ再生セズ。

食物ガ初メテ口ニ入ルヤ、齒マヅコレヲ碎キ
テ唾ニ混ジ、胃ヲシテ消化シ易カラシム。然ラ
ザレバ胃ハ十分ニ消化スルコト能ハズ、消化セ
ザレバ身體ヲ養フコト能ハズ。然ノミナラズ、
食物ヲ嚙ムコト疎漏ナレバ、甚シク胃ヲ勞スル

が故ニ、遂ニ胃病ヲ起コスニ至ルベシ。抑身體虛弱ナリシ人が食物ヲ丁寧ニ嚙ムニヨリ遂ニ壯健ノ人トナリシハ余ガ屢見シ所ナリ。サレバ身體ノ健康ヲ保護セント欲セバ必齒ノ健康ヲ保護スベシ。

甚熱キ物ヲ食ヒ、甚冷カナル物ヲ食フ時ハ齒ニ痛ミヲ覺ユ、コレ皆齒ヲ害スル所業ナリ。非常ニ堅キ物ヲ碎キテ以テ齒ノ強キニ誇ルハ、愚人ノ所爲ナリ。口中ヲ不潔ニスルハ人ニ嫌ハルルノミナラズ、遂ニ齒ノ病ヲ起コスニ至ル。余ハ

諸君がむしばノ苦シミヲ實驗セサルヲ願フナリ、余ハ諸君ガ食味ノ樂シミヲ失ハザルヲ願フナリ。

齒ヲ愛スベシ、愛スベシ。

一枚ノ齒ヲ失へバ、

神醫ノ術モ返シ得ズ、

帝王ノ富ミモ買ヒ難シ。

沸騰ノ熱ニ逢ハスナヨ、

氷レル物ヲ食フナヨ。

堅キ物ニテ苦シムナ。

清潔ニスルヲ怠ルナ。

金剛石ノ

山ヨリモ、

珊瑚、真珠ノ

島ヨリモ。

三十二枚ノ

白玉ハ

又ト得難キ

物ナルゾ。

滋養ノ門ヲ

堅クシテ

百年ノ命ヲ

保ツマシ。

勇氣。

汝故意ニ毛虫ヲ取リテコレヲ弄フトモ害ヲ

受ケザラン。 毛シ不意ニ毛虫ニ觸レ、或ハ、恐レ

テコレニ觸ルル時ハ必ソノ毒ヲ受ケテ手ノ指

腫レ痛ムベシ。

人ニ勇氣アル時ハ皮肉オノツカラ強クシテ

外物ニ犯サルルコト寡シ。 故ニこれらノ如キ、

流行病ハ臆病ナル人ニ感ズルコト多シ。 勇氣

盛ナル時ハ病ニカカルコト無ク、タトヘ病ミテ

モ快復シ易ク、瘡モ創モオノツカラ癒工易シ。

或都會ニ紳士アリキ。 コノ人病ニ罹カリテ

ヨリ數年、百藥効ヲ奏セズ、醫師ノ勸メニヨリ強

ヒテ運動ヲナスト雖、ソノ心更ニ樂シマズ、日日唯

衰弱ヲ増ス、ノミナリキ。

機轉ナル醫師アリテコノ人ヲ診察シテ曰ヒ
 クルハゴノ病到底余が手ノ及ブ所ニアラズ
 某ノ國某ノ山ニ一人ノ名醫アリ死スベキヲ起
 コシテ生ニ回スコト百發シテ百中ス。然レドモ
 コノ人繁忙ヲ厭ヒテ敢テ都會ニ出テズ。君宜
 シノ往キテ治療ヲ乞フベシ。

紳士ハ大ニ喜ビ俄ニ旅行ノ支度ヲシテ發足
 シケルガソノ地ハ極メタル僻地ニテ道路ノ難
 所甚多ク夢ニヒ車馬ヲ見難カリキ。然レドモ
 紳士ハ名醫ニ逢フベキ樂ミアリ勇氣アリ謂ハ

ユル熊徑鳥路ヲ事トモセズ水ヲ涉リ山ヲ踰エ
 數日ヲ經テ遂ニソノ山ニ達シヌ。カクテソノ
 名醫ヲ尋ヌルニ曾テソノ名ヲ知ル者ナカ
 リケレバ紳士ハ醫師ニ欺カレタルヲ初メテ悟
 リ燃ユルカ如ク怒リシガ奇ナルカ大病ハ既ニ
 癒エタリキ。コレ數日間勇氣ヲ含ミテ運動セ
 シガ故ナリ。

勇氣アルトナキトヲ比較スレバソノ業同ジ
 クシテソノ効天地雲泥ノ違ヒアリ。故ニ古語
 ニ曰ハク精神一タビ到ラバ何事ヲ成ラザラズ。

又曰ハク意ノ向カフ所ニハ道必有リ。

雷。

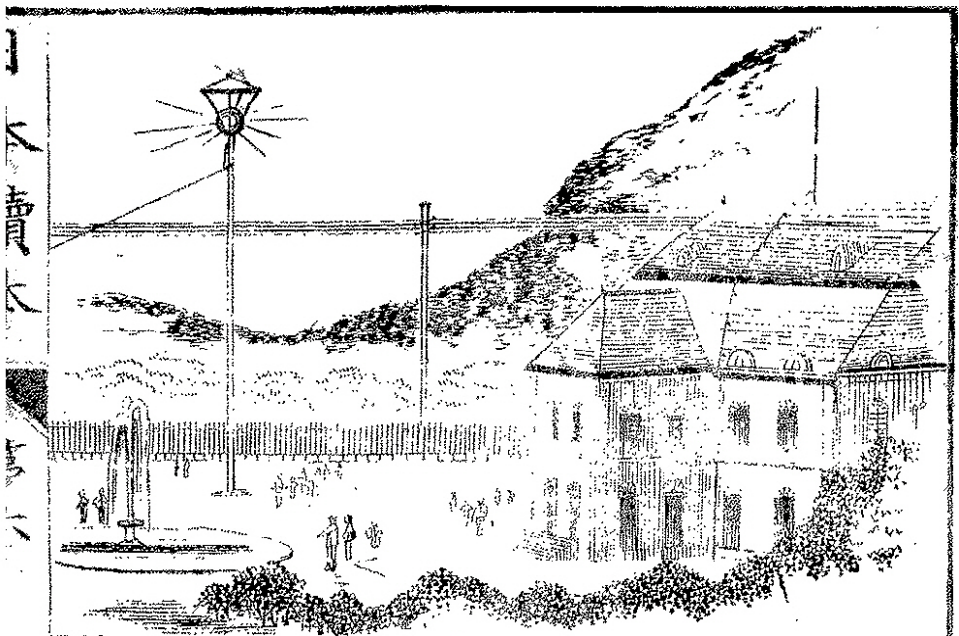
連日ノ炎天燒クが如久蒸スが如久日既ニ没シテ暑サ未散ゼズ。庭ニ水ヲ注ゲバ直チニ乾キ團扇ヲ動カセバ却リテ暖カナル風ヲ生ズ。コノ時一群ノ雲空中ニ現ハク般般タル雷遠方ニ聞コムコレタ立ちノ至ラントスル兆シナリ。暫アリテ一天墨ヲ磨レルが如久雨ハ盆ヲ覆スが如久忽ニシテ電光目ヲ打テ雷聲耳ヲ貫ク。

暫ニシテ雨止ミ雲散ミ雷電ハ聲ト光リヲ收

メ天明月静ニ庭ノ梢ニ掛カル。地面ハ更ニ濕ヒテ得草木ハ再喜ビノ色ヲ復ス。餘レル水ハ流レテ何處ニ行ク。雷電ハコレ何處ヨリ來リシ。コノ水ハ元河海ノ水ナリキ。コノ水ハ太陽ニ熱セラレテ蒸發セシ者ナリ。コノ水ハ空中ニ於キテ寒氣ニ逢ヒ露ヲ結ビテ落ちタルナリ。コノ水ハ相集マリテ溝ニ入り河ニ入り遂ニ海ニ至ラン。

汝等モシ暗室ニテ猫ヲ倒ニ撫デバ弱キ光リノ發スルヲ見ルベシ。又同時ニ微カナル音ヲ聞

クバシ。カク光リト音ヲ發スルハ電氣ノ働キナリ。電氣ハ人爲ヲ以テ起コシ得ベキノミナラズ、自然ニ空氣中ニ起コルコトアリ。雷電ハ即空氣中ニ存スル電氣ノ働キニシテ、ソノ音ヲ雷ト云ヒ、ソノ光リヲ電光ト云フ。故ニ雷電ハ猫ヲ撫デタル時ニ發スル電氣ト性質ヲ同ジクス。ソノ異ナルハ唯光リト音ノ強弱アルノミ。然ルニ電氣ハ近來コレヲ利用スルノ道廣クシテ世ノ便利ヲ達スルコト寡シトセズ。今ソノ効用ノ一二ヲ擧ゲテコレヲ言フベシ。電信ハ電



氣ヲ銅金ニ通ジテ遠方ニ合ヒ圖ヲナスモノナリ、電氣燈ハ電氣ニ由リテ光リヲ起コスモノナリ。雷ハ屢大木ノ上ニ落ツコレ電氣ハ夫レル端又ハ濕ヒタル者一辺ツク性アレバナリ。汝等道中ニテ大雷ニ逢フ時ハ直チニ地上ニ伏セ、或ハ

日本奇談 卷六
大木ノ邊ニ近ヅケ。近邊ニ大木アレバ、雷ハ汝等ガ頭ヲ窺ハザルベシ。然レドモ大木ニ近ヅクコト甚シキ時ハコレト共ニ碎カルルノ恐れアリ。

電氣ハ甚金類ノ中ヲ通り易ク故ニ屋根ノ上ニ金類ノ尖レル柱ヲ建テソノ端ヨリ鑠ヲ導キテ地中ニ埋ムレバ、コノ家ニ近ヅク所ノ雷ハ皆コノ道ヨリシテ地中ニ入り敢テ家屋ヲ破ラザルベシ。コレヲらいよけば、即避雷柱ト云フ。汝等ハ西洋造リノ家ニ於キテ屢コレヲ見

シナルマシ。然ルニ或家ニハ避雷柱ノ真似ヲナシ唯尖レル棒ヲ屋根ニ立ソルコトアリ。コハ雷ヲ呼ビ寄スル而已ニシテ、コレヲ地中ニ送ルノ設ケナシ、正ニ雷ヲシニ家ヲ破リ、人ヲ害セシムルノ工夫ナリ恐ルベシ、恐ルベシ。

雷ノ起コルヤ、大抵ソノ光リマツ見エ、ソノ聲ハ後ニ聞コユ。汝等嘗テ遠方ノ花火ヲ望ミシコトアルベシ。コレモ亦光リヲ見ルノ後、ヤヤアリテソノ音ヲ聞ク。蓋道愈遠ケレバ、聲ノ達スルコト愈遲シ。嘗テコノ時間ヲ算セシニ響キハ

大抵一秒時ニ三町ヲ行クト云ヘリ。故ニ電光
 ヲ見テ一秒時ノ後ニ響ヲ聞クハ雷ガ三町ノ遠
 キニ在ルナリ。十秒時ヲ要スルハ三十町ヲ隔タ
 ルナリ。雷モシ汝等ガ近邊ニ在ラバ汝等ハ
 光リヲ見ルト同時ニ既ニ雷ニ觸ルルナルベシ。
 既ニ光リヲ見ルノ暇アレバ雷ハ汝等ノ近邊ニ
 在ラズ況聲ヲ聞クノ暇アルニオイテヲヤ。汝
 等甚シク雷ヲ恐ルルコト勿レ。

蛙ノ子ハ蛙ニナル。

古キ諺ニ曰ハク蛙ハソノ卵ヨリ出デタル也

玉杓子ノ善ク游グヲ見テ樂シミテ曰ノ鯉ニナル
 カ、鮒ニナルカト。既ニシテ杞玉杓子漸成長シ、
 遂ニ蛙トナリテ池ノ岸ニ飛ブラ見テ歎息シテ
 曰ス、アア蛙ノ子ハ蛙ニナルト。ワレ汝等ニ蛙
 ノ成長ヲ話リン。

杞玉杓子ハ蛙ノ卵ヨリ生マル。杞玉杓子ハ唯

大キル頭ト細キ尾ノミナル、奇異ノ動物ニシテ、
 愉快ニ水中ヲ游ギ廻ル。ソノ様子魚ニ似タル
 ノミナラズ、實ニ腮ノ中ニいらアリテ、水中ノ空
 氣ヲ呼吸セリ。アアコレ真ニ魚ナリ、父母カ鯉ニ



ナルカ、鮓ニナルカ。ト云フモ
無理ニアラズ。

既

ニシテ、**杞玉**子漸長ズ

レバソノ足亦漸延ビ、尾ハ次

第ニ縮マリテ全ク蛙ノ形ヲ

成ス。コノ時いらハ既ニ形

ヲ失ヒテ、一ノ肺ヲ生ゼリ、

杞玉子ハ既ニ蛙トナレリ、

既ニ肺ヲ有セリ、**肺**ヲ有ス

ル物ハ最早魚ト共ニ呼吸ス



ベカラズ。肺ヲ有スル物ハ人或ハ獸ト共ニ空

氣中ニ呼吸スルヲ要ス。見ヨ、コノ動物ハ水中

ノ呼吸甚苦シキヲ以テ覺エズ頭ヲ空氣中ニ出

ダス。コノ時呼吸何等ノ愉快ゾ、何等ノ驚キゾ、忽

岸ニ上リテ上等動物ノ仲間トナル。昨日マデ

水中ノ草ヲ食トセシモ今日ハ空氣中ノ虫ヲ取

リ食フ。父母ガ**蛙**ノ子ハ蛙ノ子ニナルトテ慙

むハ甚誤レリ、却リテソノ蛙ニナレルヲ喜ハザ

ルベカラズ。スベテ蛙ノ類ハヨノ次第ニテ成

長スルナリ。

蛙、蟊ノ類ハ人ヲ害セズ、草花ヲ荒ラサズ、果實ヲ盜マズ、却リテ有害ナル虫ヲ取り食フ。然ルニソノ形ノ美シカラズ、ソノ運動ノ鈍キヲ以テ、人ニ愛セラレザルノミナラズ、却リテ人ニ嫌ハルルハ實ニ憐ムベキナリ。

汝等蟊ノ大膽ナルヲ知ルカ。蟊ハ棒ヲ見テモ畏レズ、大聲ヲ聞キテモ驚カズ、無理ニ追ハルルニ至リ悠悠トシテ去ル。蟊ノ様子ヲ見ルニ恰云フガ如シ、僕ハ君等ヲ害スルコトナシ、君等ハ僕ヲ罰スルコトヲ得ズ。僕ハ今君等ヲ刺

ス所ノ蚊ヲ食ヘリ。君何故ニ僕ヲ追フ。古キ諺ニ曰ハク善人ハ常ニ大膽ナリ。

兄弟ノ情

昔備前ノ國ニ池田光政ト云フ賢キ大名アリキ。ソノ領地ニ兄弟ノ訴訟アリ、ソノ親戚、朋友兩方ニ分レテ各道理ヲ述べ及ビ証人トナリ、數年ヲ經レドモ曲直分レザリキ。コレニ由リテ光政ハ泉某ト云フ學者ニソノ裁判ヲ命ジケルニ、泉辭シテ曰ハク臣ハ儒官ナリ、イマダ訴訟ヲ裁判セシコトナシ、願ハクハ他人ニ命ジ給ヘ。

光政曰ハクゾレ或ハ然ラン。然レドモ思フ様アリテ汝ニ命ズルナレバ重子テ辭スルコト勿レ。泉モサル者ナリケレバ謹ミテ命ヲ承リ私宅ニ歸リキ。

泉ハヤガテ兄弟ヲ私宅ニ召喚シ且附キ添ヒ入ノ出ヅルヲ禁ジタリ。兄弟ノモノ即出頭シケルニ取り次ギノ人出デテ曰ハク主人今公用アリ暫ココニ待タレヨ。トテ大ナル室ニ導ケリ。コノ室ハ謂ハユル廣間ニテソノ中央ニ唯一ツ火鉢アリ。兄弟ノモノ數年來中惡ミカリケ

レバ各兩方ノ隅ニ居テ相遠カリ、敢テ一言ヲ交ヘズ。二人待ツコト半日ニシテ、日既ニ暮レヌレド主人イマダ出デズ。既ニシテ家僕來リテ兩人ヲ導キ共ニ沐浴セシメ、共ニ夕飯ヲ食セシメ、又前ノ室ニ入レテ主人ヲ待タシム。

夜漸深ケテ四鄰タガ犬ノ吠ユルヲ聞久折リシモ嚴冬ノ最中ナリケレバ寒氣肌ニ透リテ堪ヘ難ク、兩人ハ知ラズ知ラズ火鉢ニ寄り各手ヲサシ延ベケリ。コノニ於キテ兩人ハ種種ノ事ヲ思ヒ出シ、ソノ幼キ時母ノ傍ニ在リテ紅葉ノ

如キ手ヲ一ツ火鉢ニ煖メシコトナドヲ思ヘバ
 母ヲ慕ヒ兄弟ヲ親ムノ心頗ニ起リ中絶ヲ悲ム
 涙覺エズ膝ノ上ニコボレケリ。兄マツ曰ヒケ
 ル様吾レハカク迄ニ争ハントハ思ハザリシヲ
 人人ニ扇ギ立テラレテ思ハズモ不悛ノ兄トナ
 リヌ。今ヨリ過チヲ改メテ和睦セバ如何。弟
 モ固ヨリ願フ所ナリトテ兩人取り次ギヲ頼ミ
 訴訟ノ願ヒ下ゲヲ申シ入レケレバ泉ハ大ニ喜
 ビ直ニ出デテ兩人ノ悔悟ヲ祝シケリ。兄弟ノ
 情ハ誠ニカクアルベシ。過チヲ改ムルハカク

アリタシ。泉が處置ノ宜シキコト、光政がヨク
 人ヲ用フルコトヲ世舉リテ賞美シタリトゾ。

夢野氏ノ後悔。

今ヲ去ルコト三十年、余ガ十歳ノ時、アル日課
 業ニ點數ヲ失ヒ、心甚快カラズ、鬱鬱トシテ家ニ
 歸リギ。余ガ母ハソノ日持病ニ苦シミタルガ、余
 ノ歸リヲ見、病ヲ忘レテ起キ直リ、太郎ヨ、今日ノ
 課業ハ如何ナリシ。母ハ年年ニ弱ク成リ行ク
 ニ、不勉強シテ人ニ後ルナ。貧家ノ子ナリトテ
 人ニ笑ハルナ。ト聞キモアヘズ、屢聞キシ事ヲト

云ヒナガラ、黙敷ノ不平ヲ足ニ言ハセテ荒荒シ
 ク坐ヲ立チケル時、母ハ苦シゲニ水一杯ヲ乞ヒ
 ケレバ、口ニ小言ヲ啖キナガラ水ヲ酌ミ、投グルガ
 如ク枕元ニ置キテ走り出デヌ。**サ**テ日暮ルル
 マデ野ニ遊ビシカバ、心モ漸收マルママニ、怒リ
 ラ母ニ移セシヲ悔イ、又母ノ顔ノ甚寔レシヲ念
 ヘバ、心更ニ安カラズ、急ギテ家ニ歸リヌ。**家**ニ
 歸レハ母ハ正ニ眠レリ、コレヲ呼ビ起コサンモ無
 心ナリ、前刻ノ非道ヲ謝セニモ今更改マリタル
 様ニ恥カシケレバ、ミヅカラ夕飯ヲ食ヒシママ母

ノ傍ニ卧シヌ。**カ**クテ心猶安カラズ、眠ルトモ
 ナク覺ムトモ無カリシガ、夜半ニ至リ母ノ俄ニ
 苦シム聲ニ驚キ、起キテ介抱シナガラモ、猶平生ノ
 持病ナラントコソ思ヒ恃ミシガ。**悲**イカ大コ
 レヤカノ死ヌト云フ事ナラニ、顔色ハ變ハリ、息ハ
 絶エ、瘦ヒタル手ハ氷リノ如ク冷ユナガラ猶余ガ
 手ヲ執レリ。**カ**カル事アラント知りタラバ宵
 ノ間ニ呼ビ起コシ前、過言ヲ謝スベカリシニ、刺
 サヘコノ世ノ最後ノ水一杯ダニ快ク給仕セザ
 リシヲ思ハバ、胸ハ裂ケ、頭ハ破ルル心地シテ袖

ヲ嚙ミ、席ヲ搔キ裂キ、聲ノ限り叫ビシコトハ三
十年ノ今猶眼前ニ在ルガ如シ。

爾來全ク孤トナリ、或時ハ商店ノ丁稚トナ
リ、或時ハ製造場ノ職工トナリ、千辛万苦ノ間
常ニ母ノ戒メヲ忘レズ、夙ニ興キ、夜ニ寐子、勉強
ト節儉ヲ守リ、遂ニ錦ヲ著テ故郷ニ歸ルヲ得タ
リ。而シテ余ガ富貴ヲ示シテ共ニ喜バントス
ルニ母在ラズ、余ガ苦辛ヲ語リテ共ニ泣カント
スルニ母在ラズ。墓石露滑ニシテ青苔一掬ノ
涙ヲ添ヘ古木風寒クシテ、黃鳥數聲ノ啼キヲ和ス。

稀

ニ來ル夜半モ悲シキ松風ヲ絶エズヤ昔

ノ下ニ聞クラシ。

悲イカ大死ヒシ者ハ再來ラズ、過ヤシコトハ
悔ユトモ及バズ。今日千万ノ金ヲ積ムトモ生
前一杯ノ水ヲ供シ難シ。モシ人アリテ余ガ母
ヲ呼ビ返シ余ヲシテ一言罪ヲ謝スルコトヲ得
シメバ、金銀珠玉數ヲ盡クシテ與ヘンモシ世界ガ
ワガ物ナラバ、世界ヲ與ヘン。アア、ヒナキ物
ハ後悔ナリ。

紀元節天長節。

長崎ノ物モ函館ニ送り得ベク琉球ノ物モ千島ニテ買ヒ得ベシ。夏ハ北海道ニ往キテ暑クヲ避ケ冬ハ九州ニ遊ビテ寒クテ凌グベシ。田舎ノ人ハ東京ニ出デテ繁昌ヲ見物シ、東京ノ人ハ田舎ニ旅行シテ閑静ヲ樂シム。海ニハ船アリ、河ニハ橋アリ、陸ニハ車馬アリ、岩ヲ開キ山ヲ崩シテ往來ノ道ヲ平カニス。

今日ハ二月十一日ニシテ紀元節ノ日、老イ

タルモ、若キモ、男モ、女モ、樂シクニ市中ヲ往來セ

リ。コノ中ニ九州ノ人モアラン、北海道ノ馬モアラン。イカニ賑ハシキ世ノ中ナラズヤ。誰レカ船橋ヲ作り、誰レカ道路ヲ開キシ。汝等ハ皆答フルナラン、職人ハ船橋ヲ作り、人夫ハ道路ヲ開キシナラント。誠ニ然リ、然レドモ誰レカ人夫ト職人ヲシテ自由ニ道路、橋、船ヲ作ラシメシ。今吾レコレヲ語ラン。

汝等が祖父ノ若カリシ頃ハ人力車モナク馬車モナカリキ、況鐵道蒸氣船ノ如キハ夢ニモ知ラザリキ。道路ハ惡シク、船ハ弱ク小サクシテ

諸物ヲ運漕スルコト自由ナラザリキ。サレバ
 江戸ヨリ函館ニ著船スルニ、動スレハ數十日ヲ
 涉リ、然モ秋、冬ニ至リテハ難船ノ不幸寡カラザ
 リシト云ヘリ。

極メテ古キ時代ニハ國國ノ人互ニ相惡ミ、各
 大將アリテ西ハ東ヲ攻メ、南ハ北ト戦ヒ、物ヲ掠
 メ土地ヲ奪フ習ヒナリシカバ、相往來スルノ心
 ハナク、却リテ敵ヲ防グガ為ニ山ハ猶モ高カレ
 道ハ猶モ惡シカレト願ヒシナラン。山國ノ人
 ハ海魚ヲ見ス、海邊ノ人ハ山國ノ獸ヲ知ラザリ

シナラン。其ノ不便利ハ如何計リト思フヤ。

吾が天皇ノ先祖神武天皇九州ヲ討チ平ゲソ
 レヨリ海ヲ度リテ、本島諸國ノ大將等ヲモ討チ
 從ヘ、二月十一日日本天皇ノ位ニ即キ全國ノ人
 民ヲ支配シテ、互ニ相妨グルコトナク、往來自由
 ナラシメ給ヒキ。抑コノ年ハ日本ノ人民一致
 シテ一ノ帝國ト成レル年ナレバ日本帝國ノ始
 メトモ云フベシ。故ニコノ年ヲ日本紀元第一
 年トシテ年ヲ數フルナリ。コレ實ニ實ニ遠キ
 昔ノ事ニシテ汝等が祖父、曾祖父ノ代ニアラズ、

其ノ親ノ代ニモアラズ、大凡百代ノ昔ニシテ、年ヲ數フレバ、明治二十年ハ紀元二千五百四十七年ナリ。明治十九年ハ紀元ノ幾年カ。本年ハ紀元ノ幾年カ。

神武天皇以後今ニ至ルマデ代代ノ天皇引キ續キテ日本帝國ヲ治ム、或ハ外國ト交リテ產物ヲ交易シ、器械、學問ヲ傳ヘ、或ハ軍ヲ起シテ外國ノ亂暴ヲ防グ給フ。殊ニ今ノ天皇陛下ハ廣ク西洋諸國ト交通ノ道ヲ開キ、鐵道、蒸氣船、郵便、電信等ノ事業ヲ起シ給フ。故ニ唯日本國中往來

ノ便利ナルノミナラズ、**あ**めりかノ穀物モ食フベシ、**い**ぎりすノ織リ物モ著ルベシ、外國ニ商賣シテ富ミヲ致スコトヲ得ベシ。

サレバ**神武**天皇即位ノ日**二月十一日**ヲ**紀元**節トシ、今ノ**天皇**誕生ノ日**十一月三日**ヲ**天長節**トシテ、コノ兩日ニハ人民相賀シ、相樂シ、日本帝國ノ万歳繁昌ナランコトヲ祝スルナリ。

祭日祝日。

祭日、祝日ニハ日章ノ國旗家家ノ軒ニ翻リ、何トナク心長閑ニ見ユル者ナリ。學校ノ生徒ハ

休業シ、或ハ手ヲ携ヘテ野山ニ遊ビ、草花ヲ折リテソノ名ヲ語り合ハセ、或ハ思ヒ思ヒノ遊戯ヲナシテ樂シク一日ヲ過ゴスナラシ。兒童ハ皆問ヒヲ好ミリ。 **壬**シ祭日、祝日ニ至ル時ハ、今日ハ何故ノ休業ナルカヲ問フコト往往アリ。 **余**ハ既ニ紀元節、天長節及ビ春秋ノ**皇靈**祭ヲ教ベキ今又他ノ一二ヲ教ヘシ。

十月十七日ハ**神嘗**祭ノ日ナリ。コノ頃ハ稻ノ正ニ熟スル時ナルガ故**天皇**陛下ヨリ**伊勢**ノ**皇太神**宮ニ新米ヲ奉リ給フ、コノ祭リヲ**神嘗**祭

ト云フノリ **皇太神**宮ハ陛下ノ御先祖**天照**大神ヲ祭レル宮ナリ。

十一月二十三日ニハ陛下初ノ新穀ヲ食シ給ヒ、及ビ國國ノ有名ナル神社ニ新穀ヲ奉リ給フ、コレヲ**新嘗**祭ト云フ。朝廷ヨリ供物ヲ獻シ勅使ノ參向セシメラルル神社ヲ官幣社ト云フ各府縣ニ於テ地方廳ヨリ供物ヲ獻シソノ廳ノ長官次官ガ參向スル神社ヲ國幣社ト云フ。神社ニハ種種アレドモ大抵ワカ國ニ功勞アル人ヲ祭レル者ナリ。 **京都**ノ**北野**ノ神社ニハ

菅原道真ヲ祭り攝津ノ湊川神社ニハ楠正成ヲ
 祭リタルナリ。ソノ他汝等ガイマダ知ラザル
 神神ハ多ケレドコレヲ歴史ニ考へ或ハ國國ノ
 記録ニ考フル時ハ皆國ノ爲ニ功勞ヲ顯シタル
 人人ナリ。サレバ永クソノ恩ヲ忘レザラシ爲
 コレガ神社ヲ建テテ國人ノ記憶ニ殘スナリ。

花ノ王。

飽カテ別レシ ソノ花ノ

形見ニトメシ 葉櫻ニ

イツシカ老イテ 昨日今日

訪フモノトシテハ 秋風カ
 露カ、涙カ、 時雨フル
 ヨソノツラサニ 時ヲ得シ
 紅葉ノ中ニ 立チマシル
 影モハツカシ。 イザ、サラバ
 桐ノ一葉ニ 後レジト
 落ツル古葉ノ ウラオホテ
 ろらみ顔サヘ 朽チソメテ
 骨モアラハニ 色替ハル
 カカル時ニハ 戸ハトモ

誰レカハ云ハン。 トニカクニ

セン方ナキハ 時時ノ

移レバ替ハル 習ヒカテ。

ソノ時時ノ 違ハスバ

根深ク立テル コノ幹ヲ

風ニ折ラセジ。 ササガニノ

蛛手ニ繁キ ヲノ枝ヲ

雪ニ折ラセジ。 來ニ年ノ

春ノヤヨヒノ 曙ニ、

嵐モ霞ハ 紅ノ

薄花櫻 リシ出テテ

朝日ニ匂フ ソノ時ハ

世ハ花ノ世ト 成リ替ハル

花ノミカドト 世ノ人ハ

ワガ蔭ニノミ 立ちヨラシ

千代萬代ニ 長カレト

ワレヲ祈ラン。 鬼ニ角エ

樂シキモノハ 時時ノ

移レバ替ハル 習ヒカテ。

年號

明治八年ノ名即年號ナリ。年號ハ昔ヨリア
 ルコトニシテ、時代ヲ簡便ニ云ヒ顯スガ爲ニ
 付ケタル者ナリ。天保錢、寛永錢ノ天保、寛永ハ
 各ソノ錢ヲ鑄タル年ノ年號ナリ。富士山ノ腹
 ニ癩ノ如キ山アリ、コレ寶永年中ニオノヅカラ
 出來タル山ニシテ寶永山ト名ヅケラル。ソノ
 他天明ノ飢饉、明曆ノ大火ナド云ヘリ。コレ等
 ハ皆三百年以來ノ年號ナリ。
 年ヲ數フルニ年號ヲ以テスル外、紀元何年ヲ

以テスルコトハ汝等既ニ知ルナラン。ワガ國
 ノ紀元ハ神武天皇御即位ノ年ナリ。西洋諸國
 ニテハ耶蘇ノ生マレタル年ヲ紀元第一年トス、コ
 レワガ紀元六百六十一年ニ當タレリ。故ニ明治
 二十年即神武天皇即位紀元二千五百四十七年
 ハ耶蘇紀元千八百八十七年ナリ。汝等兩紀元
 ノ末位ノ數字常ニ相同ジキヲ記憶スベシ。西
 曆何年ト云フハ耶蘇紀元何年ト云フニ同ジキ
 ヲモ記憶スベシ。

日本國ノ昔話シ。

諸君ハ日本ノ紀元ヲ知レリ。余ハ紀元以來ノ話シヲ諸君ニ聞カセン。抑神武天皇ノ紀元ヨリ今上ノ御代ニ至ルマデ年ヲ經ルコト二千五百餘年。歷代ノ數ハ百二十二代ナリ。ソノ間日本ニ起レル事實ハ固ヨリ數フバカラズ。ソノ中、最要用ニ、最著シキ事實ヲ次第シテココニ話スベシ。

紀元以前ハ國中處處ニ賊アリテ互ニ相攻ノ相争ヒ、騷動甚シカリキ。神武天皇日向ノ國ヨ

リ舟軍ヲ率片テ本島ニ行幸アリ、伊勢ヲ經テ大和ニ入り近國ノ賊ヲ討テ平ゲ、即コノ國ニ都ヲ定メ給ヒキ。コレヨリ後代代ノ天子或ハ軍ヲ起コシテ賊ヲ討テ、或ハ人民ニ工業ヲ教ヘ、或ハ川ヲ修メ、溝ヲ開キテ農業ノ便利ヲ興シ給ヒキ。

紀元七百年ノ頃、景行天皇ノ御世、九州ニ謀叛人起コリケレバ、皇子日本武尊ヲ遣シテコレヲ討テ平ゲ、更ニ東國ニ遣シテ蝦夷人ヲ逐ヒ、拂ハシメ給ヒキ。コノ皇子御一代ニ付キテハ面白キ話シ、武ク勇メル話シ、哀レニ悲シキ話シ

多シ。ソノ後百年ヲ經テ仲哀天皇ミツカラ九州ノ謀叛人ヲ征シ給ヒイマダ平定ニ至ラズシテ崩ジ給ヒヌ。コノ天皇ノ皇后ヲ神功皇后ト申シ奉ル。皇后ノ三韓征伐ハ汝等嘗テ聞キシナラン。皇后ノ御子應神天皇ノ朝ニ至リ三韓ヨリ支那ノ書籍ヲ奉ルコレワガ國漢字ノ初メナリ。ソノ後醫師、樂人、画工、陶器師、織物師、佛敎等凡支那ニテ開ケシ事物ハ大抵朝鮮ヲ經テ來リ大ニワガ國ノ學問ト職業ヲ進歩セシメタリ。紀元一千二百年頃始メテ支那ト交通ヲ開キキ。

一千三百年ニ於キテハ汝等が知レル、蘇我氏ノ亂アリ、中大兄皇子鎌足ト共ニ謀リテ入鹿ヲ誅シ給ヒキ。中大兄皇子ハ即天智天皇ニシテ最支那ノ文明ヲ喜ビ給ヒ、諸ノ儀式、規則ヲ皆支那ニ倣ハセ給ヒシハ歴史中ニ著シキ事實ナリ。汝等聽ケ、ソノ頃ハ支那ノ學問、技術萬國ニ秀デタル時ソカシ。鎌足公ハ天智天皇ヲ輔ケ奉リ、亂ニモ治ニモコノ人ナリケレバ藤原氏ノ勢コレヨリ漸盛ニナリス。

ソノ後百年ヲ經テ桓武天皇都ヲ山城ノ京都

ニ定メテ永ク帝都トシ給ヒキ。コレヨリ以前ノ都ハ大抵大和ニアリキ。汝等大和巡リヲセ

ハ奈良ヲ始メ多ク帝都ノ蹟ヲ見ルベシ。又百年ヲ經テ清和天皇ノ朝ニ至リス。コノ

頃ヨリ藤原氏ノ女常ニ皇后ニ備ハリ、隨ヒテ代

代ノ天皇ハ藤原氏ノ御腹ナリケレバ、藤氏ノ一

門常ニ重要ノ官ニ任ゼラレ、天下ノ政ヲ專ニセ

リ。故ニコノ時代ヲ藤原氏ノ時代ト云フコト

アリ。藤原氏代代重要ノ官ヲ占メ天子ヲバ有レド

モ無キが如クニシ、然モ政事ニハ勉メズ唯奢リ

ヲ極メ遊戯ニ耽ルノミナリキ。力カル世ノ中

ニアリケレバ、歌文ノ盛ナル外ハ一ノ見ルベキ

コトナク、國國ノ武士ハ漸心ヲ傾ケズナリヌ。

宇多天皇ハ菅原道真ヲ用ヒテ藤原氏ノ勢ヲ滅

ゼント謀リ給ヒシガソノ志シテ遂ガ給ハザリシ

ハ汝等が知レル如シ。後ニ條天皇モ亦コノ志シ

ヲ果シ給ハザリキ。ソノ間醍醐村上ノ二天皇

ハ深ク心ヲ政ニ留メ天下ノ民ヲ惠ミ給ヒシカ

バ、今ニ至ルマデ延喜天曆ノ政治ト云ヒ傳フ。

延喜ハ醍醐天曆ハ村上ノ御代ノ年號ナリ。

藤原氏ノ時代ニアリテ相馬將門ノ謀叛アリ、

平貞盛田原藤太秀郷等コレヲ誅シ、コレヨリ平

氏稍勢ヲ得タリ。ソノ後陸奥ノ國ニ安倍貞任、

弟宗任ノ謀叛アリ、源賴義ソノ子八幡太郎義家

ト共ニコレヲ討チ平ラグソノ間九年ヲ經メリ、

コレヲ前九年ノ戦ヒト云フ。後同國ニ清原武

衡、同家衡ノ亂アリ、義家コレヲ討チ三年ニシテ

平ヲクコレヲ後三年ノ戦ヒト云フ。源氏東國

ニ在ルコト前後十餘年、東國ノ武士皆源氏ノ威

ニ服シ、朝廷ヲ忘レタルガ如シ。而シテ源氏

ハ常ニ藤原氏ニ親ミテソノ助ケヲナセリ。鳥

羽天皇ハ藤原氏ノ勢ヲ抑ヘンガタメ平忠盛ヲ

重ク用ヒ給ヒテ平氏ノ勢頗盛ニナレリ。力ク

シテ源平ニ氏ハ他日相争フノ本ヲ開キタリ。

藤原氏ノ榮エモ三百年ニシテソノ運命未ニ

ナリヌ。後白河帝ノ保元二年ニ至リ先帝崇

徳院當今帝ト御不和ニシテ軍ヲ起コシ給ヒ源平

ニ氏思ヒ思ヒニ兩方ヲ助ケ奉リ、父子兄弟ノ間

ニ無慙ノ殺伐ヲ行ヒシガ、第四年日平治二年ニ

至リ源氏ハ全ク打チ負ケ、平氏獨勢ヲ得ルニ至
 レリ。コレヲ保元平治ノ亂ト云フ。源氏ニハ
 源義朝平治ノ亂ニ死シ、ソノ子賴朝伊豆ノ國ニ
 流リ、賴朝ノ弟等ハ皆幼カリキ。平氏ニハ平
 清盛太政大臣ニ任ゼラレ、ソノ一門皆重要ノ官
 ヲ占メ、榮花ハ藤原氏ノ昔ニモ勝リタリ。平氏
 ノ榮ユルコト僅ニ二十年ニシテ、源賴朝伊豆ヨ
 リ起コリ、ソノ弟牛若丸ハ源義經ト名乗リ、兄ヲ助
 ケテ軍ヲ起コセリ。義經ハ古今無雙ノ名將ニシ
 テ、向カフ所敵スル者ノク、一ノ谷ニ戰ヒテ平氏ヲ

本島ヨリ逐ヒ、屋島ニ戰ヒテ平氏ヲ四國ヨリ逐
 ヒ、遂ニ長門ノ壇ノ浦ニテ平氏ノ一門ヲ滅ボシヌ。
 カクテ賴朝ハ征夷大將軍ニ任ゼラレ、右近衛大
 將ヲ兼テ、武官ノ長上トシテ府ヲ鎌倉ニ置キ、獨
 軍事ノミナラズ天下ノ政ヲ握ルコトトナリヌ。
 サレバ天朝ハ又アレドモ無キガ如クニシテ、ヨ
 レヨリ後明治元年マテ殆七百年ノ間ハ武家ノ
 世トナレリ。
 鎌倉ニハ源氏ノ家臣ナル北條氏代代執權ト
 シテ政ヲ握リ、天子將軍ヲ侮リ奉リシ、北條氏

第九代ニ當タレル高時ニ至リ、汝等が知レル如ク、
 後醍醐天皇詔ヲ下シテ北條氏ヲ討チ給ヒキ、
 ココニ於キテ楠正成ハ河内ノ國金剛山ノ城ニ
 籠モリテ北條氏八十萬ノ大軍ヲ引キ受ケテ、屢コ
 レヲ打テ惱マシ、新田義貞ハコノ間ニ鎌倉ヲ攻
 ムテ北條氏ヲ滅ボシヌ。カクテ天下ノ政一旦朝
 廷ニ送リシモ、墓ナクテ足利尊氏謀叛ヲ起コシ、正
 成、義貞等勤王ノ諸將前後戦死シ、尊氏遂ニ征夷
 大將軍トナリ、世ハ又武家ノ世トナリヌ。

足利氏ハ將軍タルコト十三代二百四十年間
 ナリシガ、諸大名ヲ制スル勢甚弱ク、君臣相戦ヒ、
 隣國相攻メコレヲ戰國ノ世ト云フニ至レリ。
 ソノ間武田、上杉等ノ名將起リ、軍ノ法ハ大ニ進
 歩シタリ。余ハ血臭キ無慙ナル話シテ進メズ、
 更ニ足利ノ八代將軍ニ立チ返リ一言スベシ。
 八代將軍義政ハ政ヲ勉メズ、京都東山ノ銀閣寺
 ヲ造營シ、奢リテ極メ、遊戯ニ耽リシカバ、人民ノ
 煩ヒ少カラザリシガ、却リテ器物、圖畫等ノ術大
 ニ開ケ、殊ニコノ頃ヨリ畫工ノ名人ヲ出セリ。
 足利氏ノ末ニ織田信長、尾張ヨリ起リ、諸國ヲ

平ゲテ京都ニ入り皇居ヲ造營シ官ハ右大臣ニ
升リシガソノ臣**明智光秀**ノ為ニ弒セラレヌ。
コノ時世界無類ノ英雄アリ即故右大臣ノ將羽
柴**筑前守秀吉**ニシテ、僅ニ十餘日ニシテ**光秀**ヲ
滅シ、續キテ諸國ノ亂ヲ平ゲ官ハ關白ニ至リ、姓
ヲ**豐臣**ト給ハリ日本ノ政ヲ手ニ握レリ。然レ
ドモ**秀吉**ハ初メヨリ日本ヲ小ナリトシ、國ヲ
征スルノ心アリケレバ、遂ニ**加藤清正**等ヲ遣シ
テ朝鮮ヲ攻メソノ王城ヲ取り、勢ニ乘ジテ**支那**
ニ攻メ入ラントセリ。秀吉ハ國ヲ廣ムルコト

ヲ能クスレドモ命ヲ延バスコト能ハザリケレバ惜
イカ大心ヲ朝鮮**支那**ニ殘シテ身マカリヌ。

秀吉ノ子幼クシテ政ヲ取ルコト能ハザリケ
レバ**徳川家康**征夷大將軍ニ任セラレテ幕府ヲ
江戸ニ開キ天下ノ政ヲ取りキ。徳川將軍ノ世
ハ十五代二百六十年計リ、ソノ間天下太平ニシ
テ學問漸漸ニ進ムニ隨ヒ、天下ノ民朝廷ヲ尊ム
モノ日日ニ多久今ハ**徳川氏**ノ威勢ヲ要セザル
ニ至リケレバ**徳川**將軍ハ政ヲ朝廷ニ返上シ、今
上陛下ミヅカラ政ヲ取り給ヒキ。ソノ翌年ハ



明治元年...
 コノ年徳川氏ノ臣屬等前將軍ノ趣意ヲ決リ
 テ朝廷ノ命ヲ奉ゼザリシガ幾モナクシテ官軍ニ
 降りヌコレヲ戊辰ノ役ト云フ。

先帝ノ朝ニあめりかノ使者來リテ交易商賣
 センコトヲ求メ續キテいぎりすふらんす等モ
 來リ請ヒシガ皆コレヲ許サル。カクテ今上ハ
 大ニ學校ヲ興シテ汝等ヲ教ヘ或ハ道路ヲ開キ
 テ往來ヲ便ニシ或ハ外國ノ勝レタル術ヲ取リ
 テ汽車汽船電信等ヲ設ケ給ヒ今ヤ日本ハ東洋

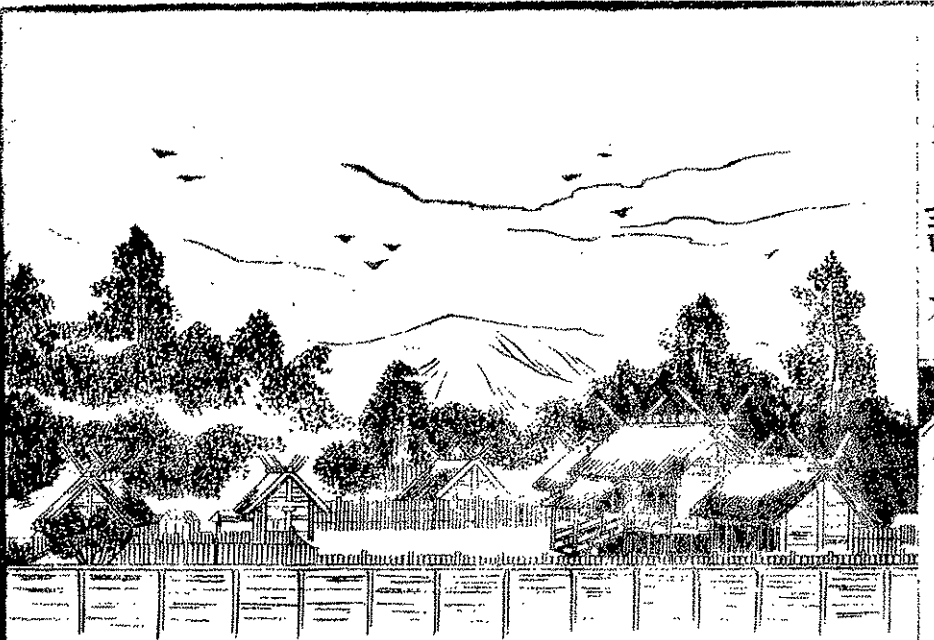
第一ノ文明開化ヲ成シタリ。

世界萬國何レノ國ニテモ皆種種ノ變化ヲ經ル者ニシテ、外國ニハ帝王ノ家ヲ亡ボシテコレニ代ハル者サヘ屢アリ。殊ニ支那ニテハ王家ノ變ハル毎ニ國號ヲ改メ、或ハ漢ト云ヒ、或ハ唐ト云ヒ、今ハ清ト稱スルナリ。日本ハ二千五百年以來太平アリ、亂世アリ、時トシテハ支那風ヲ取り、時トシテハ西洋風ヲ取り、政ハ朝廷ニ在リ、或ハ武家ニアリシモノノ間臣トシテ天子ノ位ヲ望ムモノナク、天子トシテ國民ト争ヒ給フコト無

カリシカバ、王室ノ變ハラザルコト太陽ノ萬代不易ナルが如シ。サレバ日本ノ萬世一系ノ天子トテ、世界ニ目出タキ例トセリ。

三種ノ神器。

伊勢ノ國ノ皇太神宮ハ天皇陛下ノ極メテ遠キ御先祖ナル天照皇太神ヲ祭り奉レル宮ナリ。皇太神ヨリ天皇ノ御家ニ代代傳ハル寶アリ、鏡、劍、及ビ玉ニシテ皆皇太神ノ御身ニ付ケテ愛ニ給ヒシ物ナレバ、天朝ニテコレヲ祭り給フコト猶皇太神ヲ祭り給フが如シ。鏡ヲ八咫ノ鏡ト



云ヒ、劍ヲ村雲ノ劍ト云
ヒ玉ヲ八坂瓊ノマガ玉
ト云フ。

然ルニ今ヨリ二千年
前、鏡ト劍ヲ摸シ造ラセ
テコレヲ禁裡ニ祭り給
ヒ、真ノ鏡、劍ヲバ伊勢ニ
移シ祭り給ヒキ、即今ノ
皇太神宮ナリ。
百餘年ヲ經テ日本武

尊東夷ヲ征伐シ給フ時、コノ劍ヲ帶ビ、相摸ノ國
ノ野中ニテ八方ヨリ火攻ニセラレシ時ニ、劍
ヲ抜キテ草ヲ薙ギ倒シテ難ヲ逃レ給ヒシヨリ、
コレヲ草薙ノ劍ト云フ。後ニコノ劍ヲ尾張ノ國
熱田ノ宮ニ祭レリ。

サレバ今朝廷ニハ摸シノ鏡、劍、及ビ真ノ八坂
瓊ノ勾玉ヲ祭ラセ給ヘリ。コレヲ三種ノ神器
ト稱シ、歷代ノ天皇ハ必マツ神器ヲ受ケテ然シ
テ後ニ位ニ即キ給フナリ。

義心

愛スベキ吾が兒童等、今吾が云フ所ヲ聽ケ。コノ學校ノ生徒ニハ六、七才ノ童子アリ、十餘才ノ童子アリ。而シテコノ長少ノ童子等ハ皆互ニ親切ナル朋友ニシテ、幼キハ長ゼルヲ敬ヒ、長ゼルハ幼キヲ助ケ、強キハ弱キヲ救フコト余ガ親シク知ル所ナリ。況汝等兄弟アル者ハ互ニ相敬ヒ相愛スルコト更ニ言フヲ要セザルナリ。汝等休暇ノ日ニ方リ、兄弟、朋友相携ヘテ村落ヲ散歩スル時、モシ猛犬アリテ汝等ヲ吠エ、汝等

ヲ嚙マントセバ、汝等ハ如何スル。強ク盛ナル童子ハ直チニ棒ヲ振ヒ、石ヲ握リテ前ニ立チ、女子及ビ幼童ヲ後ロニ立テテ防グナラン。

萬一亂暴人アリテ汝等ノ家ヲ亂暴スルコトアラバ如何スベキ。亂暴ヲ鎮メ、盜賊ヲ捕フルハ巡查ノ務メナリ。然レドモ事急ニシテ巡查ニ告グル暇ナキ時ハ、戸共、子共、從僕ヲ間ハズ血氣盛ナル人人コレヲ防ギ、老人、小兒、婦人ノ身ニ恠我ナカラシムベシ。

村落ニテ失火アル時誰レカ第一ニ火事場ニ

趣ク。亦コレ村内ノ强壮ナル人人ナリ。二十年前ニハ田舎ニテ用水ノ争ヒ屢アリキ。コレ他ニアラズ、田地ノ水乏シキ時潛ニ鄰村ノ水ヲ盗ミテ注グコトアリ、而シテ旱魃ノ時ニハ一滴ノ水モ猶豫シ難キが故、是非ヲ訴フルニ暇ナク遂ニ兩村ノ間ニ戦ヒテ起コスナリ。コノ輩或ハ竹槍ヲ振ヒ、或ハ葛口ヲ振ヒ、或ハ石ヲ抛チ、巨ニ傷ク者少カラズ、然ノミナラズ、遂ニ領主ノ裁判ヲ經テ更ニ鞭ノ痛ミヲ蒙ルモノアリ。コレ實ニ痛ムベク、悲シムベキ事ニシテ余ハ汝等ニ語ル

ヲ樂シマザルナリ。然レドモソノ戦ヒヤ、婦女老弱ヲ殘シ、血氣盛ナルノ壯年、少年、身ヲ抛チテ一村ノ爲ニ利ヲ起コレ害ヲ除クノ義心ハ誠ニ嘉スベシ。

サレバ二三ノ朋友ナリ、一家内ナリ、一村ナリ、苟一組ノ中ニ急難アル時ハ、言ヒ合ハサズシテ、強壯ノ者マヅコレニ當タル。今モシ支那人が日本ヲ小國ト侮リ多勢ノ黨ヲ率井テワガ國ニ亂暴ヲ加ヘ、ワガ人民ヲ辱シムルコトアラバ、誰レカコレニ向カフベキ。モシ外國人が日本ノ富ミヲ奪

ハンタメ、理ヲ非ニ曲ダテ、軍艦ヲ率井來リ戦フ
 コトアラバ、亦誰レカコレニ向フベキ。コレ日
 本國ノ急難ナレバ、國中ノ強壯ナル者ハ、鐵砲ヲ
 肩ニシ、陣刀ヲ腰ニシテ、コノ難ニ趣カザルベカ
 ラズ、日本人民ノ勇氣、義心ヲ示シ、外國人ヲシテ
 永ク日本國ヲ畏レ敬ハシメザルベカラズ。力
 クノ如キ不時ノ變ニ備ヘン爲、國中ノ壯年交番
 ニ出テテ、戦争ノ誓古ヲナスコレヲ徵兵ト云フ。
 滿二十一年ハ初メテ徵兵検査ヲ受クルノ年
 國ヲ護ルノ年ナリ、コレヲ丁年ト云フ。 終

明治二十年八月六日 版權免許
 同 二十年十一月十日 校正届

著者

新保 健

次

東京府士族

神田區末廣町十番地

出板人

原 亮

日本橋區本町三丁目十七番地

大賣捌所

金港堂原亮三郎支店



賣捌所

金港堂支店

各府縣下代理大賣捌所

明治20
45